

令和4年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

蒲川中学校区 校番 23 学校名 呉市立蒲川中学校

a 学校教育目標	未来を拓く生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 小規模校の良さを生かしグローバル社会で活躍できる生徒の育成 〈ビジョン〉(将来の学校像) 地域創生の核となる学校
----------	------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	○資質・能力を育成できるよう授業の「不易と流行」を意識しながら、「教えて考えさせる授業」をベースとした授業改善を推進する。 ○小中で一貫して取り組む総合的な学習の時間をベースとし、仲間や地域の人と協働的に関わることから、夢や志をもって自己の生き方を考えることができる生徒を育成する。
------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	『知識・技能』『思考・判断・表現』『自己の生き方を考える力』『協働的に関わる力』
-------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせ、未知の状況にも対応できる児童生徒の育成	知識・技能の確実な定着 ★身に付けた学習内容(知識・技能)を他の学習や生活の場面で活用できる生徒の育成	○朝読書の取組や広報委員会の活動を活用して読書活動を活性化させる。	・生徒アンケートで、月の読書冊数の平均が3冊以上である割合	80%						
			○授業において、理由や根拠を挙げながら説明する機会を多く設ける。	・生徒アンケートで、自分の考えに理由を付ける等、相手に分かりやすく伝えようとしている割合	90%						
			○家庭の協力のもと、宿題をやりきらせるとともに、予習・復習の習慣を付けさせ、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	・生徒アンケートで、家庭学習(宿題・予習・復習)習慣が身に付いたと感じている割合	90%						
			○授業や部活動において、週5日以上自己に合った体づくりに取り組む。 ○部活動の始まりに、体力強化メニューを短時間で実施する(ラダー、縄跳び等)。	・生徒アンケートで、体力向上に努めている割合 自校の課題項目(3種目×6=18項目)中、全国平均以上の項目の割合	90% 60%						
		④ 自己表現で きる力の育成	○学校朝会などによる発表の場の設定と自分の考えを説明する場を大切に授業を推進する。	・生徒アンケートで、「相手に分かりやすく表現した」と答えた割合	80%						
		思考力・判断力・表現力の育成 ★知識及び技能を活用して、課題解決や未来を拓く行動ができる生徒の育成	○「教えて考えさせる授業」において「学び合い」を仕組み、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ○新聞を活用して社会の出来事に関心を持ち、社会の持つ課題を自分のことと結びつけて意見を表現する。 ○各教科等におけるICT機器を活用した教育を充実させる。	・期末試験(1・2学期の5教科)における「思考・判断・表現」の問題の正答率 ・生徒アンケートで、世の中の課題について考え新聞スピーチ等で自分の意見を表現している割合 ・教員アンケートで、授業支援アプリのシンキングツールなどを日常的に授業で活用している割合	60% 90% 100%						
**	郷土を愛し、協働して貢献し、学んだことを人生や社会に生かそうとする児童生徒の育成	④ 自己肯定感の育成	○異校種・異学年交流を充実させる。	・生徒アンケートで、「自分にはよいところがある」「自分には人の役に立っている」と答えた割合	90%						
		自己の生き方を考える力の育成 ★夢の実現に向けて自己の生き方を考え、よりよく生きるための行動ができる生徒の育成	○夢の実現に向けて自己の生き方を考えさせ、自分の考えを発表し交流する取組を充実させる。 ○新型コロナウイルス感染症対策を行いながら「未来を拓く100のであい」を通して、自己の生き方を考えさせる。 ○食に関する指導や学校給食を通して、健康的な食生活や望ましい食習慣を考えさせる機会をつくる。	・学活などで「自己表現」の場を学期1回または年間3回以上 ・生徒アンケートで、自分の生き方について考えることができている割合 ・生徒アンケートで、「食」を通して自己の健康について考えている割合	100% 90% 90%						
		協働的に関わる力の育成 ★郷土や仲間を愛し、相手の気持ちを尊重して協働し、積極的に貢献できる生徒の育成	○「ふるさと学習」を充実させ、地域貢献のために自分達にできることを考え行動しようとする態度を育成する。 ○異年齢の生徒が協働的に関わり、取り組むことができる行事を充実させる。 ○行事等、仲間と協働することで役割を果たし達成感が得られる体験を充実させる。 ○生徒指導部と生徒会を中心に、自分から積極的な挨拶の定着を図るための取組を充実させる。	・生徒アンケートで、地域のために自分にできることを考え行動しようとしている割合 ・生徒アンケートで、異年齢で協働することの大切さを実感している割合 ・生徒アンケートで、自己の役割を果たすことができている割合 ・生徒アンケートで、地域の方に会った時には挨拶をしている割合	100% 100% 100% 90%						
		*	教職員の意欲と能力を 発揮できる 教育環境づくり	生徒と向き合う時間の確保 ★スクラップアンドビルドによる教育活動の質的向上	○スクラップアンドビルドを推進するとともに、各種教育活動や働き方改革に資するアイデアを全教職員から募集・実践し、全教職員のモチベーション向上を図る。	・教員アンケートで、生徒と向き合う時間が確保されていると感じる割合	80%				
長時間勤務の軽減 ★一人一人の個性や強みを活かしイノベーションが起きる組織づくり	○教職員の得意分野の活用や、業務を協力して行う体制の構築によって、組織が機能した効率的な業務の運営を行う。			・毎月の全教職員の時間外在校等時間の平均が45時間以内	100%						

【k: 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60